

北緯40度

そぞろある記



三陸ふだいを満喫

岩手県北観光と村観光協会主催の「三陸ふだいモニターツアー」が2月22、23の両日村内などで開かれ、内陸部の住民が鉄山染や漁船乗船などを体験し普代を満喫しました。

ツアーには盛岡市などから約30人が参加。初日は盛岡駅前からバスと三陸鉄道のこたつ列車で村

まで移動し、萩牛地区地域特産品生産施設で鉄山染に挑戦しました。参加者は萩牛生活研究グループ（佐々木一代代表）の皆さんから指導を受け、白いハンカチを思い思いの形に輪ゴムで結び、染め上げました。（写真）夜は国民宿舎「くろさき荘」で旬のワカメなどを味わい、鶺鴒神楽を鑑賞。23日には漁船クルージングなどを体験しました。



これはデカイぞ！

巨大シユウリ貝（イガイ）写真が発見されました。見つけたのは緑区の米田幸四郎さん（71）。2月9日、愛犬の散歩中に普代南浜の船揚場の波打ち際で見つけたそうです。シユウリ貝の大きさは19センチ。漁師さんの話だとこれは通称「底シユウリ」といわれているもので、三陸沿岸では20センチを超えるものも珍しくないとのこと。しかし、実際に見るとなかなかお目にかかれない大きさ。気になる中身を聞くと、「ところが腐ってたんですよ」と米田さん。残念でした。

津波犠牲者を追悼

明治と昭和の三陸大津波で犠牲となった方々を追悼する、津波記念日慰霊祭が3月3日、中央区の「横町津波記念塔」と太田名部の「津波記念塔」前で行われました。

慰霊祭には深渡宏村長、熊谷聰村議会議長をはじめ役場・消防関係者、地区住民ら約80人が出席。午前8時のサイレンと共に黙とうをしました。深渡村長は「津波の教訓を忘れることなく、近いうちに来ると予想されている津波に海岸地区の皆さんは注意してほしい」とあいさつ。皆さんは犠牲者の冥福を祈り慰霊塔に献花しました。（写真）

